

〔新入社員の声〕

## 新入社員の声

今 泉 真 桜

(株式会社シムコ 鶴田事業所)

All about SWINE 67, 25

昨年度新卒で入社しました、株式会社シムコ鶴田事業所の今泉と申します。このようなメッセージを寄稿させていただく機会をいただき、大変光栄に思います。

入社してあっという間に一年が過ぎ、二回目の夏を迎えるました。入社からの半年間、各豚舎での研修を行い、昨年10月からは同事業所の種豚・AI業務に携わっています。大学では畜産に関する研究をしていましたが、知識としてはある程度養豚について見聞きする機会がありました。実際に養豚の現場や豚そのものに触れ合う機会は少なく、少し不安を覚えながらの入社でした。実際に何万頭もの豚が飼養されている大規模な農場を肌で感じたときの衝撃は忘れられません。研修で初めて豚たちを間近で見て、養豚の奥深さに触れたびに、この業界で働くことのやりがいを強く感じるようになりました。

新入社員研修では、実際に豚舎の中に入り、先輩方に支えられながらも、分娩舎、種豚舎をはじめ、AI舎、離乳舎、育成舎と多くの豚舎を回り、給餌や除糞などの定型作業や、分娩の介助や発情確認、出荷作業まで、あらゆる作業を経験させていただきました。その中でも先輩方からよく教えられたのは「豚を見る力」を養うことです。一頭一頭のわずかな変化から体調やストレスを見抜き、適切な処置を施す姿は、まさに職人技だと

感じました。どの豚舎においても豚から得られる情報を瞬時に最大限受け取り、それを生かしていく必要があります。はじめの頃は、同じ豚としか認識できていませんでしたが、少しづつ個性や特徴、体調の変化が見えるようになってきたときは少しだけ成長できたように感じました。

AI・種豚担当者として、1年弱が経過した今、少しづつ任されることも増えてきました。最近では、純粋交配の管理を任されるようになっています。育種価や産次だけでなく、分娩舎での成績や体型など一概に交配するといつても見るべき項目がたくさんあり、日々葛藤しながら業務に励んでいます。AI舎での業務では1つ1つの作業がお客様からのクレームにつながる可能性があるため、細心の注意を払って作業に取り組んでいます。少しづつ作業効率も上がり、仕事のスピードも安定してきましたが、種豚舎・AI舎どちらもまだまだ精度が高くないことが現在の課題となっていると考えています。種豚舎・AI舎の両方の管理を経験させていただいている分、そうでない場合と比較して気が付けること多くあると感じています。これらの経験を活かし、今まで以上に知識と技術を深め、より精度の高い交配技術を身に着け、安定した種豚の作出に貢献していきたいです。